

身軽に

布宮慈子  
やすこ

順ぐりに古稀といふもの迎ふれば身軽にならむと頭めぐらす  
四年ものあひだ触れざる小屋の中おそるおそる開けてみむとす  
梅干や胡瓜の塩漬、かりん酒と弟切草酒も土間に並びて  
ありし日に家の誰かが飲む様を見しことあらず弟切草酒

小屋とふは異界のごとし何もかも呑み込み隠し時間を止める  
あらかたの物を捨て去りわがこころ軽くなりゆく小屋とふ入れ物  
小屋内の魑魅魍魎も退散し現実世界に近づきってくる  
植え替へたるナツメヤシはぐんぐんと芯伸ばしたりヤシ科の高木  
食べ終へし棗椰子の種を水に入れ遊びごころに眺めてをりき  
秋の日にナツメヤシに留まりゐしトンボの身軽さ思ふしばらく